

太陽が降り注ぐ海 名に染まる洞海湾



太陽が降り注ぐ海

私たちの学校は、小高い丘の上にあり、学校から洞海湾を見下ろすことができる。三年生の教室からは、授業中にふと見下ろすと大きな船が行き来しているのが見える。そこで今回、身近な洞海湾にスポットを当て、詳しく調べることにした。

洞海湾の歴史

山縣 譲子

明治初期、洞海湾は若松港と呼ばれ、遠賀川の上流で産出される石炭を積みだす要港だった。当時、水深1.5メートルのところもあった。明治二十年代に入ると、筑豊地区的炭田開発が進み、鉄道の敷設、築港開発が推進された。

日清戦争当時、日本経済は特需ブームに沸いた。こうしたブームは洞海湾周辺にも工業勃興気運となって盛り上がりを見せ、明治三十年、官営製鉄所が石炭調達の利便性を認められ設置された。また埋め立て、築港設備の拡張が急がれ、明治三十九年には、洞海湾の水深(干潮面

下)は6メートルとなる。

第一次世界大戦を契機として日本の鉱業・製鋼・造船業などはますます繁栄し、それにともなって、筑豊石炭業界も大戦景気を受け好況を謳歌した。我が国に「大戦景気」をもたらした第一次世界大戦後、戦後恐慌が経済界を襲った。しかし、大正十年六月、洞海湾沿岸が重要工業地帯として認められ、埋め立てもさらに進んだ。完成後の埋め立て地に日本水産の前身が移ってきたこともあり、洞海湾は、わが国有数の一大漁港としての発展も約束されることとなつた。

ピカピカしているあの建物は?

洞海湾には、毎日たくさんの中型船が出入りしているが、多くの人はその船の種類や積荷、そしていつ入航し、いつ出航するのかを知らないのではないかと私は考えた。そこで、洞海湾に入航、出航する船、またその種類について調べた。

おもに入航している船は、貨物船で、他にはセメント専用船やタンカーなどだった。洞海湾周辺には、金属加工系の工場が多く、その材料を輸入し、加工後ものを輸出するための船が多かった。船の入航、出航のタイミングは大半の船が港で二日ほど停泊し、短くて四時間で出航していた。(左データ参照)

洞海湾を往来する船

高松 ありさ



洞海湾には、毎日たくさんの中型船が出入りしているが、多くの人はその船の種類や積荷、そしていつ入航し、いつ出航するのかを知らないのではないかと私は考えた。そこで、洞海湾に入航、出航する船、またその種類について調べた。

○ 入航 十隻	○ 出航 十隻	○ 貨物船 十八隻、 タンカー 一隻、 押船舶 三隻
（押船舶とは起重機船や台船などを後ろから押して航行する船舶のこと。）		

十月十六日（木）

「出入航船舶予定情報」

（牧山船舶通航信号所）



漫画担当：小宮 由梨奈

参考：わかちく史料館
水環境保全技術研修マニュアル
牧山船舶通航信号所 HP

Q5. 今年3月に、横浜港に入航した英國船籍の豪華客船はどれ？

① ぱしふいっくびいなす
② クイーン・エリザベス
③ オーシャン・ドリーム

「新聞からクイズ」

A. ②が正解。

文化祭後に部員が増えた新聞部。1年生と2年生が一人ずつ増え、パワーアップしました。今回コンクールに挑戦！難しいテーマですが、結果は…？ 5人で頑張りますので、今後ともよろしくお願いします。

管制信号

管制信号。この言葉を聞いたことがあるだろ？ 管制信号とは、港を出入りする船の交通の安全と円滑化を図るための信号である。信号の種類は様々で、一つ一つに異なる意味を持つが、「ここでは若松港内で使用されている管制信号について少し紹介してみよう。使用されている信号は主に十ほどあるが、全てに異なるマークが使われているのではなく、信号同士を組み合わせているものも多い。

例えば、「I」のマークが表示される信号は入航信号で、「X」のマークが表示される信号は禁止信号である。しかし、この二つが組み合わさった「X」と「I」が交互に点滅する信号は入航予告信号になると考へるまでになつた。



↑ 学校から見た洞海湾

九国付中・中学校新聞

第25号 発行日：2014.10.27

九州国際大学付属中学校
新聞部：藤津 香凜
緒方 智子
小宮 由梨奈
高松 ありさ
山縣 譲子

- 今号のおもな内容
- 1 太陽が降り注ぐ海
洞海湾の歴史
工場群の夜景
 - 2 ピカピカしているあの建物は?
洞海湾を往来する船
管制信号
 - 3 新聞からクイズ
 - 4 漫画「洞海湾博士」

学校の住所
北九州市八幡東区枝光5-9-1
電話 093(671)9001

若戸大橋から湾岸沿いを眺めてみると、見渡す限り工場が広がっている。若松側に東京製鐵、日本金属、日本ベントナイト工業、日本ヒューム、戸畠側に三菱マテリアル、東邦チタニウム、太平工業、新日鐵住金など、金属系の工場が多い。これらは、十五世紀ころからの石炭業の影響である。かつて「豊かな海、クリスマスの宝庫」と呼ばれていた洞海湾。企業の産業港、排水溝としての役割を担うにつれて、「死の海」と呼ばれるまでになってしまったが、市民、企業、行政の取り組みにより、今まで漁業も復活し、開発途上国に対し水質改善のための対策技術を移転することが義務と考へるまでになつた。

現在では、工業のための港と漁業のための港としてはたらきを両立している洞海湾。北九州では、工場夜景クルーズが行われ、海上から見る工場群の夜景は、とても美しいそうだ。